



新潟県中越地震から、10月23日(ちょうど)5年になった。これを契機に、長岡市で日本災害復興学会主催の一災害・安全・復興に関する国際シンポジウムが開かれた。

ここ20年の間に東アジアで起こった雲仙普賢岳の噴火災害(1990年)、95年、阪神・淡路大震災(1995年)、台湾大震災(集集大地震、1999年)、新潟県中越地震(2004年)、四川大地震(2008年)の間に、大災害への対応と復興の経験や、地域や国境を越えて伝え合ってきた自治体レベル、市民レベルの交流の歴史があったことを改めて認識することができた。

このシンポジウムで発表された台湾の中興大学陳教授の講演では、中心テーマの集集大地震の話に付随して、今年8月に台湾を襲った台風8号(Morakot、台風)に関する情報が含まれていて興味深かった。

日本では、台風で大きな被害が出たために台湾内閣が総辞職した話ばかり大きく取り上げられ、災害状況そのものについては詳しい報道がなかったが、巨大な台風被害の実態と原因と考えられる事項が整理されていて大変勉強になった。

本稿では、陳教授の講演を参考にしつつ、台風8号による台湾の被害と集集大地震や異常気象との関係について考えてみたい。

台風8号による台湾の被害と異常気象

(26000mという報道もあつた)という歴史的な集中豪雨で、死者・行方不明者約700人を出している。

死亡が確認されたのは130人ほいで、なお300人を超える住民が行方不明になっている。

①中央気象局の台風上陸前の予報は「規模は中程度で北部に上陸し、降雨量は1000mm程度」

「本場に台湾政府の責任が」というメディアの論調とはすんなり結びつかないところがあつた。長岡での陳教授の講演

と報道されている。激しいメディアの追及に、9月7日には、どうとう劉兆玄行政院長が内閣総辞職するハメになってしまった。

台湾の災害危機管理は、「中央災害応変中心」と「中央災害対応センター」

「台湾の災害危機管理は、私のそんな疑念に幾つかのヒントを与えてくれた。一つは、集集大地震の後遺症だ。あの地震(M7.3)はちょうど今回

平均2・36人に減っている。今回の台風8号の襲来では、小林村で想像を超えた大規模な斜面崩壊が起り、また、それ以外の地域でも多数の土石流や洪水が発生して、10年間の努力を水泡に帰してしまつた、というのが真相のようだ。

「台風8号の被害」
台風8号は、今年(2009年)8月8日に台湾南部を直撃し、2日間連続豪雨(2000mmを越える)をもたらした。

この台風で大きな被害が出た原因は、まだ公式には整理されていないようだが、地元メディアで、政府の対応が悪かつたことが大きな理由、

地震により山体や斜面に入った亀裂がまたも多数残っており、何かのきっかけで崩落する下地ができていたといふことがあつた。

「大規模災害の遠因と異常気象」
今回の大規模被害の遠因として、
①経済成長優先の土地開発や水利建設が被害を拡大させた可能性があること
②二つの台風の相互作用で異常な降水になった可能性があつたこと
③地球環境温暖化による異常気象

「大規模災害の遠因と異常気象」
今回の大規模被害の遠因として、
①経済成長優先の土地開発や水利建設が被害を拡大させた可能性があること
②二つの台風の相互作用で異常な降水になった可能性があつたこと
③地球環境温暖化による異常気象

今回の大規模被害の遠因として、
①経済成長優先の土地開発や水利建設が被害を拡大させた可能性があること
②二つの台風の相互作用で異常な降水になった可能性があつたこと
③地球環境温暖化による異常気象

今回の大規模被害の遠因として、
①経済成長優先の土地開発や水利建設が被害を拡大させた可能性があること
②二つの台風の相互作用で異常な降水になった可能性があつたこと
③地球環境温暖化による異常気象

今回の大規模被害の遠因として、
①経済成長優先の土地開発や水利建設が被害を拡大させた可能性があること
②二つの台風の相互作用で異常な降水になった可能性があつたこと
③地球環境温暖化による異常気象